第４章　道徳科の授業構想

１　教師の「指導の意図」を明確にする

（１）ねらいとする道徳的価値　　【価 値 観】

○授業者が，指導する道徳的価値について理解を深めることが必要です。その際，学習指導要領解説によることが大切です。
○当該学年の内容について理解を深めると同時に，他の学年段階の内容も理解することが大切です。

（２）児童生徒の実態　　【児童生徒観】

○ねらいに関わって，これまでどのような指導を行ってきたか，また児童生徒がどのような学習や経験をしているのか確認します。
その結果，どのような成果や課題があるのか明らかにします。

○ねらいに関わるアンケートや意識調査等から実態を把握することも考えられます。

○児童生徒の成果や課題から，**補充・深化・統合**の方向性を決めましょう。
⇒これまでの指導等を振り返り，指導の機会や児童生徒の経験が少ない場合には，本時でしっかり補う必要があります。つまり，**補充**という目的になります。

⇒これまでの指導等を振り返り，より一層深く考えさせたり，感じさせたりする必要があると判断すれば，それは，**深化**という目的になります。

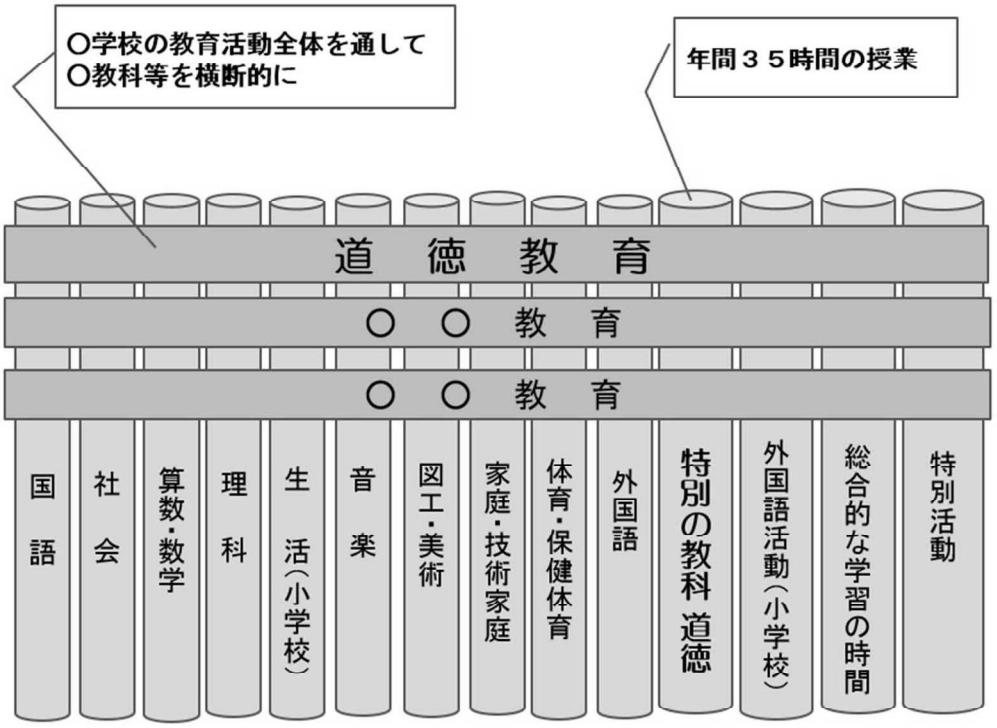
⇒様々な機会で学んだことを，合わせて考えさせたり，それらの関連に気付かせたりして，新たな感じ方や考え方を生み出すことを目的とすれば，それは**統合**といえます。

（３）教材の特質と活用方法　　【教 材 観】

○使用する教材のあらすじやよさ等を明らかにします。
○教材の具体的な活用方法を考えます。例えば，学習の中心をどの場面にするか等です。

２　道徳教育と道徳科（特別の教科　道徳）

「道徳教育」と「道徳科」は，図に示すと，下のようになります。



「道徳科」は，週一時間の授業のことです。
「道徳教育」は，学校の教育活動全体を通じて行う教育です。

「道徳教育」も「道徳科」も，目指すのは，児童生徒の道徳性の育成です。

児童生徒の道徳性は，「道徳教育」と「道徳科」の両面で育成していくことが大切

さて，左のページの**「補充，深化，統合」**は言い換えると，次のようになります。
補充　⇒　足りない面を補う　　**深化**　⇒　さらに深める　　**統合**　⇒　まとめて捉えさせる

例えば，生命尊重をねらいとした道徳科の授業を実施するとします。
子どもたちは，これまで理科をはじめ，各教科等の学習において，生命の尊さについて考える経験をしています。
他にも，学校行事では命の授業，学校生活の中では動物の飼育活動等も行っています。

このような生命尊重に関わる児童生徒の学びや経験を振り返り，どのような成果や課題があるのかを明らかにしていけば，補うのか，深めるのか，まとめて捉えさせるのか，授業の方向性が明確になってきます。

このように「道徳教育」と「道徳科」をつなぐのは，**補充，深化，統合**を意識した教育活動です。

「補充・深化・統合」とは，「道徳教育」と「道徳科」をつなぐキーワード

３　読み物教材をどう読むか

読み物教材を読むときにどんなことに留意して読んでいますか？

例えば，時代背景や登場人物の関係，難解な言葉，あらすじの起承転結等，様々な視点があると思います。

ここでは，道徳科の発問作りに関係の深い３つの視点を紹介します。

①道徳的価値に関わるどんな問題状況が起きているのか。
**　または，その出来事に道徳的価値がどのように関わっているのか。**
②行間はあるのか。
③ねらいに関わって，児童生徒に一番考えさせたい場面はどこか。

【①の視点について】

道徳科の教材である以上，道徳的価値に関わる人物の行動や出来事，また人物の迷いや悩む場面等が描かれています。それらが，どのような道徳的価値と関連があるのか明確に捉えます。

【②の視点について】

行間とは，文章には直接表現されていない人物の気持ちや場面等のことです。

道徳科の発問では，教材に書き込まれていない行間を問うことが原則です。

【③の視点について】

児童生徒に，この場面を考えさせたいと感じるのは，授業者が児童生徒の実態を知っているからです。児童生徒に対する願いが，そう感じさせるのだと思います。

その際，考えさせたい場面が，授業のねらいと一致するのか吟味することが必要です。

二通の手紙（私たちの道徳　中学校）をどう読むか（例）

【①の視点について】

○主人公の元さんは，入園終了時に，幼い姉弟を入園させるか，断るか迷っている。つまり，思いやりと遵法精神がぶつかることによって葛藤が生じている。

○元さんが規則をやぶり，姉弟を入園させた結果，姉弟の命に関わる事態になってしまう。規則を尊重しなかったことが，生命尊重を軽んじた結果となる。

【②の視点について】

○元さんが，入園させた姉弟が動物園内で迷子になったと知った時。

○元さんが，姉弟が見つかった報告を聞いた時。

○元さんが，母親の手紙を読んだ時と懲戒処分の通告を聞いた時。

○元さんが，会社を辞めて，去っていく時。

【③の視点について】

○元さんが，規則を破って，姉弟を入園させた場面。

○元さんが，母親の手紙と懲戒処分の手紙を受け取った時の場面。

４　道徳科の発問

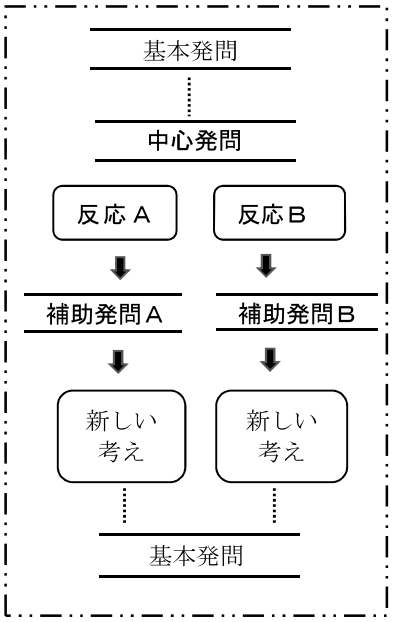
①発問の種類

道徳科の発問には，例えば，下のような３つの発問が考えられます。
この３種類の発問を構成していけば，授業の骨子となります。

中心発問	ねらいに直結した発問
基本発問	中心発問を支える前後の発問
補助発問	基本発問や中心発問を補ったり深めたりする発問

②発問の構成

発問を構成する場合には，中心発問をまず考え，次にそれを生かす前後の発問（基本発問）を考え，全体を一体的に捉えるようにすると有効な場合が多いと言えます。



しかし，中心発問と基本発問だけでは，授業は上手く展開できません。
中心発問に対する**補助発問**を準備した上で，日々の授業に望みたいものです。

補助発問とは，指導案や実践事例集等にも，あまり書かれることがない教師の臨機応変な対応を必要とする発問のことです。

右図を見てください。
例えば，反応Ａが多い場合には，Ａと考える児童生徒たちの考えをゆさぶったり，新たな視点を与えたりできるような補助発問を準備します。
補助発問には，問い返したり，ゆさぶったりしながら児童生徒の考えを深めたり広げたりする等の効果が期待できます。

【補助発問の例】

考えの根拠を明らかにしたい時	「なぜ，そのように考えたのかな。」 「今までの考えと変わったようだね。なぜ変わったのかな。」
別の視点から考えさせたい時	「反対の立場で考えたらどうなるのだろうか。」 「本当にこれでいいのかな。」「別の立場で考えられないかな。」
２つ以上の考えを比較させたい時	「Ａ とＢのどちらの気持ちが強いと思いますか。」 「Ａ とＢは，どんな違いがありますか。」
全体の話題にしていきたい時	「Ａさんの考えを，どう思いますか。」 「Ａさんの発言にある○○は，どういうことかな。」

５　発問の具体例

①発問で何を問うのか

中心発問や基本発問等を設定する際には，例えば，下の表を参考にすることが考えられます。

心情を問う	・この場面での○○は，どのようなことを考えていたか。 ・○○は，心の中で，何と話しているか。
行為を問う	・○○が，～したことをどう思うか。 ・○○が，～したのは，正しい判断と言えるのか。
自分を問う	・これまでの自分は，友達に対して，どのような接し方をしてきただろうか。 ・これから，友達とどのように接していけばよいだろうか。
道徳的価値を問う	・本当の友情とは，どのような関係だろう。 ・どうすれば，広い心がもてるのだろうか。
教材を問う	・この話から，どんなことが大切だと感じたか。 ・この話のどこが問題だと思うか。

では，実際に「二通の手紙」における発問を考えてみましょう。

②「二通の手紙」で考えられる発問例

心情を問う	・姉弟が迷子になった時，元さんは，どんなことを考えたか。 ・懲戒処分の通告を受けた元さんは，どんな気持ちだったか。
行為を問う	・元さんが規則を破って，姉弟を入園させたことをどう思うか。 ・会社を辞めるのは残念なことなのに，元さんが晴れ晴れとした顔で，片付けをしているのは，なぜだと思うか。 ・元さんのこの場面での「思いやり」に問題はないのか。
自分を問う	・これまでの自分は，規則に対して，どのように考えていたか。 ・これから，規則やきまりとどのように関わっていくか。
道徳的価値を問う	・規則の尊重とは，どういうことなのか。 ・規則やきまりは，必ず守らないといけないのだろうか。
教材を問う	・この話で迷うところは，どんなことか。 ・元さんの生き方から，どんなことが大切だと感じたか。

上のような発問を考えてみました。当然ですが，全ては使えません。教師の意図に合ったものを選び抜き，発問を構成していくのです。

まず，初めに中心発問を設定してみます。

③中心発問の設定（例）

【教師の意図】
法やきまりの意義の理解を深めるため，遵法精神を生命尊重や思いやり等の別の道徳的価値と関連付けて考えさせたいから。

⇔

【中心発問】
元さんのこの場面での「思いやり」に問題はないのか

中心発問の設定後，次ページのように，前後の発問（基本発問）を設定します。

６　授業の構想図（例）

指導者が明確な意図をもった授業構想

【価値観】
内容項目の理解
・指導すべき内容の理解
・学年段階の重点の把握

教師の意図
・何に気付かせたいのか。
・何を考えさせたいのか。

ねらいの明確化
・判断力，心情，態度等のどれを中心にするのか。

直結するのか？

【児童生徒観】
児童生徒の現状を把握
・内容項目に関わって，どのような指導を行ってきたか。
・その結果，どのような成長や課題があるのか。

※中心発問の前後に発問が必要な場合もあれば，
中心発問の前に２つ必要な場合等もある。

基本発問（必要に応じて）

中 心 発 問

← 補助発問
（児童生徒の反応に合わせて）

基本発問（必要に応じて）

中心発問に対する，期待する児童生徒の発言等

【教材観】指導者の「ねらい」が明確な発問構成

「二通の手紙」における明確な意図をもった授業構想（例）

【価値観】
内容項目の理解
・遵法精神は，公徳心によって支えられる。
・他律的な捉えから，自律的な捉えに。
・「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考えを深める。

教師の意図
・規則の意義について，様々な視点から考えさせたい。

ねらいの明確化
・きまりを守り義務を果たすことのできる判断力を育てる。

直結

【生徒観】
生徒の現状を把握
○ルールやきまりを守って生活している。
●ルール違反を見ても，見て見ぬふりをする。
●「人が見ていなかったり，ばれなかったなら，きまりを破る」と答えた生徒が８割。

※中心発問の前後に発問が必要な場合もあれば，
中心発問の前に２つ必要な場合等もある。

この話で迷うところは，どんなことか。

動物園の規則に問題はないのか。

元さんのこの場面での「思いやり」には問題はないのか。

← 補助発問
（生徒の反応に合わせて）

この場合は問題がある。
○規則は自分一人のものではない点について
○命より大切なものはないという点について

【教材観】指導者の「ねらい」が明確な発問構成